

飼う楽しさと命を預かる責任

犬や猫の喜ぶ姿や、飼い主を信頼しているしぐさなど、ペットと飼い主の絆は、見ている私たちの心をも楽しく暖かくさせるパワーを持っています。自分もあんな風にペットと楽しく暮らしたい、と思うのは自然な感情です。

飼い始めたその日から、ペットの命はあなたにゆだねられます。毎日の世話、住居環境、経済的状況・・・もし、不安や不確定要素があるのなら、今はペットを飼わないほうがいいでしょう。「こんなに大変とは思わなかった。」「忙しい。」「かわいくなかった。」「やっぱり無理。」・・・人はいくらでも言い訳できますが、ペットは口をきくことも、飼い主を選ぶこともできないのです。飼い主の無責任のツケはペットがその命で払うことにもなります。「好きだから、今は飼わない。」「飼えるようになるまで我慢する。」というのも、ペットへの愛情のひとつの形です。

ペットが天寿を全うするまで、数年～数十年に渡る年月を、ともに過ごす喜びをもって飼い続けることができるか、生きる全てをあなたに依存するペットを幸せにしてやれるか、その努力を続けることができるか・・・もう一度自分に問いかけてみてください。

ペットを飼うほんとうの楽しさは、責任と努力の向こうにあるのです。

